

# 野田平 虻川溪谷 沢あるき体験ツアー



第738号  
 発行人 ● 豊丘村公民館  
 館長 市澤和宏  
 編集人 ● 長野県下伊那郡  
 豊丘村公民館報  
 編集委員会  
 0265-35-9066  
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村  
 (8月1日現在 ※外国人を含む)  
 男 3,307人  
 女 3,320人  
 総人口 6,627人  
 世帯数 2,231戸

## 溪流を歩いて感じる 冒険のワクワク感

沢あるき体験ツアーは、夏休み子どもウィークスの期間中、7月17日(参加者10名)、7月31日(参加者15名)、8月7日(参加者10名)の合計3回開催された。この事業は、村が「NPO法人とよおか総合型地域スポーツクラブ」へ各種スポーツ事業の企画・実施を委託しているメニューの一つ。同クラブでは、その他にもウォーキング教室やスポーツ・健康講習会などの事業を企画・実施しており、スポーツ人口の拡大、住民の健康増進などに積極的にかかわっている。

沢あるきツアーは同クラブが子どもを対象に10年ほど前から毎年開催しており、今年は募集してすぐに定員がいっぱいになるほどの人気ぶりだった。ツアーの目的は、川に入る

ことで子どもたちに冒険のワクワクする気分を感じてもらおうこと。ルートは坂島橋から虻川に入り、ポットホールに向かっさかのぼる約1キロメートルのコース。参加者はライフジャケットとヘルメットというスタイルで大きな石のころがる川原を歩きはじめた。やがて講師に促され浅い淵に入ると、ライフジャケットの浮力でゆっくりと流され、面白さに歓声が上がった。ポットホールに到着するころには大人たちも同じように水に身を任せ、すっかり童心に帰った様子だった。

当日の気温は平地で36℃を越えたが、溪流は木陰と水の冷たさで寒さを感じるほど。帰りの下りでは川辺の藤づるにぶら下がったり、面白い形の木の枝を持ち帰ったりと川遊びを満喫し

ていた。小学校4年生の女子は「川で遊んだことはあまりない。いままでは水に手を入れたくらい。今日は気持ちよかった」と話した。同じく2年生の男子は「川で流れてみたのは楽しかった。夏休み中にお父さんと天竜川に行きたい」と話した。スポーツクラブの酒井浩文さんは「昔に川に行くことが少ないので川に親しんでもらいたい。村には観光客目線

川遊びをSNSなどで発信してもらえば観光に結び付けられるかもしれない。村には観光客目線

で川や道路を整備してほしい」と話した。また、ポットホール周辺はリニアの工事現場が近いことから「川に訪れた人が景観保護と開発のバランスをどうするのか考えるきっかけになればいい」と気持ち語った。(玉生 雅穂)



## 夏休み子どもウィークス 特集写真真



▲8月4日 星空観察会



7月31日 沢あるき体験ツアー



▲8月5日 子ども英会話教室



夏になって戦争について改めて考えなければいけない時期です。今もウクライナだけでなく世界のあちこちで悲惨な殺し合いが続けられています。相手が悪いから仕方ないのではなく、民間人が犠牲になるのは悪だが、兵士だから仕方ないのではなく、人が人を殺し合うことは絶対にあってはならないことです。皆に家族も友人もある。誰一人悲しむことがあってはいけません。早く平和になることを祈るだけです。ウクライナからの食料輸出の問題で世界中が食糧危機に見舞われています。しかしウクライナでは前線に近い都市は別として、他の都市は全く日常の暮らしを送っています。戦争をしていて食料が滞るといことがないのです。ウクライナの食料自給率は百四十%とも百九十%とも言われています。エネルギーは別として、食料は全土に豊富にあり、戦火で流通が多少滞っても全く問題がないのです。日本はグローバルな経済外交によって、食料自給を補ってきたが、今回の紛争でその弱点が見えてきました。地域ごとの食料自給率を上げる必要があると言われています。南信州にはたくさん農地がありますが、様々な問題で遊休化が進んでしまっています。農業に係る人だけでなく、皆で地域の食料自給を考える必要があります。まずは地産地消。この地域の作物を選んで買いましょう。(玉田 裕)

### 段立

# 目標12 持続可能な生産・消費形態を確保する

公民館長 市澤和宏



12 つくる責任 つかう責任

地球上のあらゆる天然資源を利し、農業・工業問わずさまざまな製品を生産し、それらを消費したあと生まれる廃棄物や物をどう処理し、また再利用するのかわかっていることも大きな目標です。天然資源が枯渇した段階で持続可能とはならなくなるのです。従って天然資源の管理も求められている目標です。さて、この目標のターゲットは全部で十一、具体的な目標八。具体的な目標を達成するための方法三つです。

生活のためのあらゆる物は、世界中のどこかでつくられた物を消費しています。身近でつくられた物なのか知らないところで知らない人々によってつくられた物なのかも考えずに消費しています。食品ロスという言葉が耳にされると思いますがこれを例に考えてみましょう。消費する側から考えてみると日本では毎日一人当たり茶碗一杯分の食料を廃棄している状況(農水省)。食糧自給率の低い国は大量の食料を輸入し、大量の食品を廃棄し、これを化石燃料で燃えるゴミとして焼却しCO2を余計に排出しているのです。食べ残しや好き嫌いは有りませんか?この瞬間どこかで飢餓により命が失われていることを認識しましょう。

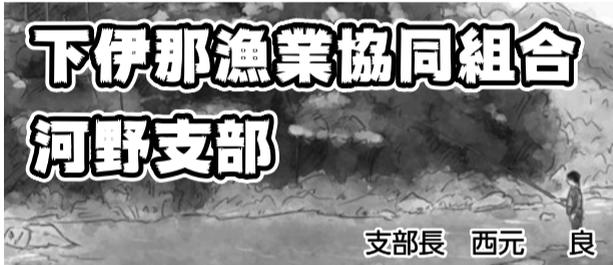
一方、つくる側から考えてみると世界的に収穫・貯蔵・輸送・加工の過程で既に食料の十三・八%が失われています(二〇一六年)。こうして私たちの手元に届いているわけです。サプライチェーン(原材料の調達から製造、在庫管理、販売、配送までの製品の全体的な流れのこと)での食品ロスをいかに削減するのが求められています。食品に限らず様々な製品においてもこのような視点で考えないといけないことがわかりただけだと思えます。

レアマタルが使われている電子廃棄物の問題も深刻です。世界の紛争・戦争の原因になっているレアメタル、東京オリンピック・パラリンピックではこの電子廃棄物の山を「都市鉱山」と位置づけそこから金・銀・銅を発掘しメダルにしたことは有名な話です。日々の生活の中で消費から再利用まで注意してみる事が大切だと思います。

この目標12に対して私たちにできることは何かを考えてみましょう。

- ①食べ物の使用物の原料やつくられ方を調べてみる
- ②食べ物は残さない
- ③包装ゴミの少ない製品を買う
- ④土がある方は生ゴミの堆肥化(コンポスト)で循環(参考文献「数字でわかる!」こどもSDGs」株式会社カンゼン「国谷祐子と考えるSDGsがわかる本」ぶんけい)

現在、小笠原、美和ダム等の泥抜きにより川は白濁となり鮎のエサである石あか(コケ)もこの泥が石に付着し鮎ばかりでは無く在来魚までもが死滅してしまっているのが現状です。魚の住めない川、一年の中でほとんど水質のきれいな天竜川を見ることができなくなってしまうました。



豊丘村の漁業協同組合は河野支部・神稲支部で構成され天竜川本流、水系河川で鮎・アマゴ、フナ等の放流に協力や河川清掃等の活動をしております。

しみであふれておりました。各民家でのオトリ鮎の販売、宿泊施設等も忙しいところであったことも今思い出されます。

こんな天竜川をこのままにしているのでしょうか?長野県を代表する河川です。各市町村で国や長野県に相談すべき点であると思えます。

部では水系にアマゴの放流を行い、のんびり釣りでいる河野河川敷、桜堤へのフナの放流等をしていきます。



## シリーズ「元気な高齢者」93 挑戦し続け実現した快適暮らしの環境保全社会

竹村昇一さん 八十九歳 中部二在住



昭和八年に現在地で農家の五人きょうだい(男三女二)の三男として生まれた。長男及び次男が農業に携わることが好きでなく二人共家を離れていったため、昇一さんは下伊那農業高校を卒業後、学校推薦で決まっていたビール会社への就職を急遽断り、家業を継ぐべく農業に従事した。しかし、三

が、下請けでは満足できず悶々とした気持ちで過ごしていた。その内、仕事仲間との付き合いの中で、日常生活で発生する汚泥物処理に関心を抱くようになった。知人の世話により汚泥物処理車を購入し、四十年に(有)近代化清掃を始めた。その後順次業務範囲を拡大し産業廃棄物処理会社として五十年に(株)南信サービス(松川町)を設立した。始めは飯伊地域での営業に留まっていたが現在では一都六県を網羅している。会社運営には多くの資格が必要であるが、それらを所有する会社が少ないという事情もあり、最遠隔地は四国だという。

今では産業廃棄物を運搬する特殊車両を五十数台有し、各地を走り回っている。本社では各地から回収した物質を焼却、乾燥、炭化するなどの処理のため今でも設備投資が不可欠だ。人間が日常の生活をする上で必要不可欠な産業廃棄物処理に対する世の中の認知度がそれほど高くなかった時に目を付けた嗅覚、更にそれを見事に軌道に乗せた実行力への誇りを強く感じた。

健康面では四十六歳の時に一人と言われる難病(頸椎部腫瘍)手術で四ヶ月入院したこと、又七年前に頭部打撲による血腫で二ヶ月入院したことがある。今は脚力に多少の難があり歩行には補助具が必要だ。酒は強くない、富さんを悩ますようなことは無かった。テレビはニュース、大河ドラマ、動物ドキュメントなどを楽しみにしている。新聞は毎日隔々まで目を通

## 歌は世につれ~ 十八話

雄大さと厳しさが伝わる『大空と大地の中で』 上佐原 小池 光好

二〇一七年八月二十日の松山千春の神対応が話題を呼んだ。北海道新千歳空港発伊丹空港行きの飛行機の出発が、保安検査場の混雑の影響により一時間遅れるというトラブルが発生。偶然に乗り合わせた千春が、機内放送を利用して自身の代表曲『大空と大地の中で』をワンコーラス披露し、歌い終わった後一言添えて乗客のイラ立ちを収めたという。『大空と大地の中で』は私の持ち歌の一つである。当初若い頃千春の持ち歌は『季節の中で』だった。数年経ち、心に染みる大人っぽい曲はないかと探し、目を付けたのが『恋』。しかし既に同僚が持ち歌としていた。ならばとノリがいい

『長い夜』にしようとしたが、若者に圧倒されて断念。『大空と大地の中で』に行き着いた。周りに競合する人もおらず晴れて持ち歌となった。『大空と大地の中で』が持歌なのは、北海道の自然にたびたび触れてきたことも影響している。利尻山・大雪山に登り、富良野・ニセコでスキーに興じた。それらの道すがら礼文島、サロベツ原野、美瑛の丘、サロマ湖等へ行った。札幌市・小樽市も訪れた。母と道央の旅もした。(ちなみ



サロベツ原生花園にて

に、大阪より西は、友人の結婚式で大分別府へ行った。その足で別府へ熊本(熊本城)を巡ったのみである。♪果てしない大空と広い大地のその中で、いつの日か幸せを自分の腕でつかむよう♪♪こごえた両手に息をふきかけてしばれた体をあたためて♪♪生きている事がつらいとか、苦しいだとか、言う前に、野に育つ花ならば力の限り生きてやれ♪♪『大空と大地の中で』は、千春の友人が酪農に勤しむ

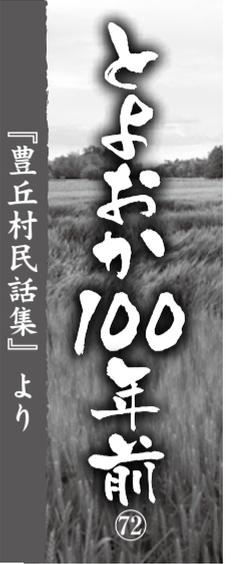
昭和八年に現在地で農家の五人きょうだい(男三女二)の三男として生まれた。長男及び次男が農業に携わることが好きでなく二人共家を離れていったため、昇一さんは下伊那農業高校を卒業後、学校推薦で決まっていたビール会社への就職を急遽断り、家業を継ぐべく農業に従事した。しかし、三

が、下請けでは満足できず悶々とした気持ちで過ごしていた。その内、仕事仲間との付き合いの中で、日常生活で発生する汚泥物処理に関心を抱くようになった。知人の世話により汚泥物処理車を購入し、四十年に(有)近代化清掃を始めた。その後順次業務範囲を拡大し産業廃棄物処理会社として五十年に(株)南信サービス(松川町)を設立した。始めは飯伊地域での営業に留まっていたが現在では一都六県を網羅している。会社運営には多くの資格が必要であるが、それらを所有する会社が少ないという事情もあり、最遠隔地は四国だという。

今では産業廃棄物を運搬する特殊車両を五十数台有し、各地を走り回っている。本社では各地から回収した物質を焼却、乾燥、炭化するなどの処理のため今でも設備投資が不可欠だ。人間が日常の生活をする上で必要不可欠な産業廃棄物処理に対する世の中の認知度がそれほど高くなかった時に目を付けた嗅覚、更にそれを見事に軌道に乗せた実行力への誇りを強く感じた。

健康面では四十六歳の時に一人と言われる難病(頸椎部腫瘍)手術で四ヶ月入院したこと、又七年前に頭部打撲による血腫で二ヶ月入院したことがある。今は脚力に多少の難があり歩行には補助具が必要だ。酒は強くない、富さんを悩ますようなことは無かった。テレビはニュース、大河ドラマ、動物ドキュメントなどを楽しみにしている。新聞は毎日隔々まで目を通

文責: 桐崎長一



『豊丘村民話集』より

### 滝川の今昔 (三)

松村安美

#### 県道端の繁栄と

#### 時代の変化

この部落が一番栄えたのは江戸時代の中ごろ過ぎから大正時代ごろまでだったようです。特に明治三十五年ごろにホッキの県道が開通したので、以前は滝川原を通らなければ馬は大鹿へ通行できなかったが、大鹿から生田の人たちが飯田へ出るには必ず間沢橋を渡り枝地籍を通るようになった。そしてこのころ台城とホッキを結ぶ「釣越(ツリコシ)」ができ、この釣越に代わって台城橋の計画がされ、明治四十四年の七月に竣工して以来、大正年代は枝地籍の最も繁盛した時代でありました。この県道端に筒井館という宿屋をかねた料理屋があり太鼓や三味線の音がして、その付近にはいろんな店が軒を並べ、蚕業

試験場の種繭の検査所や人力車の宿もあり、今の宮沢組の付近はちよつとした町の趣きがあったようです。しかし大正から昭和の初めにかけての農村不況や戦争の影響を受け、滝川も大きく変わりました。分けてもこの県道沿いの枝地籍の変化には目を見張るものがあります。そしてこの集落の繁栄に最後の止めを刺したのが、あの昭和三十六年六月の集中豪雨災害でした。何軒か残っていた人々も高森町や松川町へ移転して、現在ここは三戸を残すのみとなり、県道端には中電の信濃幹線工事の下請け会社・竹村電器と宮沢組の事務所が並び立っており、時代の変遷を思わせるものがあります。

#### 現代の滝川部落

このように一番栄えたころには二十戸余りだった部落が、いまは十三戸です。

先月に引き続き鷹見栄雄氏の研究から「大乗坊物語」を紹介いたします。これは昭和

五〇年に村の有線放送された原稿です。

『幽谷の地、大乗坊は里から四里・一六キロの奥地である。有名な国有林宮林署があって、美しい森林が生い茂り私達の村の水源地である。昔は幾抱えもある大木が鬱蒼と茂り、獣も我物顔の時代であった。そうした昔から大乗坊には人が住んで生活していたのです。大乗坊は特に仏様に因ん

ほとんどの以前は農家でしたが、だんだん兼業化が進んでおります。かつては河野でも一番の養蚕地帯でしたが、今は蚕に代わって果樹が植えられて、春には梅、桃、スモモ、りんご、梨等、次から次に咲く花に包まれて部落は桃源郷の感があります。春は山菜、秋には周囲の山には松茸をはじめ、いろんなきのこがとれ、栗やくるみが豊かに実って、県道近くでこんなにも豊かな自然環境に恵まれているということには誠にありがたいことだと感謝しております。また、今年の夏は異常ともいえる早魃でありましたが、竜東一貫水路のおかげで水不足や干害の心配は夢のように消えてなくなりました。そして水道も昭和四十六年に県の補助を受けて単独で作りましたが、これは近いうち村の水道へ統合の予定で、村の方でいま心配をしてくれています。

このように歴史も古く、伝統や詩情に富み豊かな自然と産物に恵まれた部落であります。人情もまた実にお互いに協力し合っており、

だ地名が多く、唐沢武男さん宅付近を坊主平といい、前の畑にはお寺があったという土台石があり、今は枯れてないが、庭の松だった古株もあって昔の面影を偲ばせています。このお寺で有名なお坊様が亡くなったと伝えられ、当時のお坊様が偲んで「往生坊」といい、ずつと後になって宮林署ができ、地名として相応しい呼び名として「大乗坊」に

の地域の特性を生かしているという努力も積極的に行われております。その一つが部落の共同田植えです。約三町歩の水田をわずかに二日間植えてしまうその組織力、段取りのよさは鮮やかなものです。それほど能率を上げながらみな和気あいあい、談笑の中に面白いように作業がはかどります。

田植機の音軽くして忽ちに田面は青き波の立つ

田植機の後を追いつ、早乙女ら楽しく語り苗を植えお

さ」と来てさ」と植え行く田植隊滝川協業は羨望のま

共同田植えの風景です。これは昭和四十九年から実施されております。

まだこのほかに新しい部落づくりの芽は育っておりますが、時代の進歩発展のテンポが早く住む人たちの職業や意識も多様化してこれをまとめていくことがなかなか困難な時代であります。滝川の人たちはみなそれぞれに部落の現在のあり方や将来について責任

を持って対応しておりますので、部落の会合等も非常に出席もよく、時間も正確で、協議事項もテキパキと処理されております。こうしたまとまりのよさの中で部落の内外がいろんな形で整備されつつあり、ますます住みよい部落となりつつあることは誠にありがたいことです。自分の住む地域をよくしなければ、自分の生活はよくなりません。お互いの力でこの地域をよくするのが村づくりの第一歩です。そうした共通の意識と連帯感、理解と協力の中で皆が意欲的に部落づくりに励んでいることは大いに自慢のできることだと思います。

われわれの遠い祖先が何を考え、何をしてこの地に生きてきたか、そしてわれわれは子孫のためにどんな地域社会を残すべきか。長い歴史の発展過程の中で現在のわれわれの責任の大きさ、その重さを感じるわけがあります。

(豊丘村民話集・第三集 (昭和五十三年)より) 文責：壬生雅穂

に八畳敷位の岩室があり、ここでお坊様が座禅を組んだと伝えられています。

変わったといえます。飲み水に引いている清い流れの洞を、仏に帰依する意味もあって「帰依洞」といい、「法帰坂」という所もある。東の方角に見える大岩を「松の大岩」といい、その大岩の上に松が鬱蒼と茂っている。少し離れた「千畳岩」がある。その岩下

資料館主任 唐澤武彦 (続く)

『大乗坊物語』

『大乗坊物語』

『大乗坊物語』

夫逝くも四季をたがえず咲く花よ 磯部セツ子

沙羅散つて重ねて受くる喪の知らせ 片桐 洋子

老鶯が話の腰おる山の家 森田 恵子

豪邸の屋根より高き松手入 木下 眞水

古代蓮の池一面にかがやけり 松岡 照子

品書の文字しなやかに夏料理 宮下 純子

睡蓮の雨にあまきず咲きわたり 林 恵美子

夏蝶が出迎へくれし産土神 丸山 時子

矢島千勢子

裏口に十樂繁る無住の家 池田 美和

夏桑を蚕の食めると雨の音 細井 恵子

蚊遣火の匂ひまとひし草退治 吉川 明子

背負の子早や選挙権雲の峰 河手 洋子

紫陽花の藍に溺るる深妙寺 北原 昭子

母の日に届きし録のクレマチス土にあずけて紫に咲く 壬生 千春

玉ねぎを孫娘と「よし」と引き抜きて鍋いっばいの今宵はボトフに 筒井 恵子

初採りのきゅうりを朝餉に塩一振りパリッとほじて夏はすぐそこ 大原真由美

ひと日にて伊那と甲斐路の善光寺同時に詣でてご利益二倍 松尾ヒサコ

草掻きはこれではばらく休めるかいえいそギナスベリヒユの芽 福澤貴美恵

春風に色鮮やかな紫のアイリスたちよ今は何処に 福澤 郁文

片付けの途中手に取るセピア色のアルバム懐かし時を忘れる 毛涯百合子

付け足しのやうな父の日でも嬉し滅多に呑めぬ大吟醸来る 福澤 亀人

梅雨明けも油断さんもつ大雨に 市沢 照子

油蟬夏には鳴いた声がない 安田 喜子

水油補い合って五十年 林 もも子

軸吟：火に油そそぎかねない武器援助

▼課題「星」 互選

あの星の下あたりに母の里 久保ひろし

大谷が光る活躍日本の星 原 美風

スターの座明日は流れる定め有り 山本 義彦

▼自由吟 山本義彦 選

孫夫婦元気の種をまきに來る 西元 峯子

日毎増す青田の波や農たのし 福沢 勝美

成り行きで握り返した手を洗う 小澤 凛

軸吟：普ちゃんの無念見てるかプーチャンは

柳

図書館だより 8月号

産業編集センター 働き過ぎて体を壊したけれど旅に救われた、という著者。インドを旅行中、手荷物ひとつで旅をする日本人と出会い、人として必要な物は何のくらいなのだろうか、と考えた話も載っています。自分を見つめるソコ旅をすすめる本です。

『360日絵画めぐり』 ファッション史 海野 弘(解説・監修) パイインターナショナル 十六、十九世紀の人物画を中心に、それぞれの時代の世相を、絵画のファッションから読み解く一冊です。女性の華やかさはもちろんですが、男性の多様なファッションにも目を奪われます。

『かわいい我には旅をさせよ』 ソコ旅のすすめ かわいらしい なるからい

こちら資料館 229 だいじょうぼう 大乗坊物語 ①

『大乗坊物語』

『大乗坊物語』

『大乗坊物語』

『大乗坊物語』

『大乗坊物語』

『大乗坊物語』

『大乗坊物語』

『大乗坊物語』

# ~シリーズ~ 豊丘の自然

No.223

## モノサシトンボ (モノサシトンボ科)



今年(令和4年)は神稲村で六十九年ぶりに再確認することが出来たモノサシトンボを紹介する。

本種は伊藤文男先生によつて一九五三年に神稲村で飯田下伊那で初めて発見された。先生は一生、モノサシトンボを追い続けたが、神稲村での発見が最初で最後。

た二〇二二年(先生が亡くなられて二十年が過ぎている)から、頻りに発見(新確認)されるようになり、この十一年で伊藤文男先生(神原 寛 大下 幸 貞 下 條 大 隆 上 村 龍 雄 会 地 浦 亮 木 川 路 三 穂 千 代 上 久 堅 喬 木 泰 雄)

シャッターボタンを押す前に 目の前の光景にカメラを向けてほとんどの方はそのままシャッターボタンを押しますが、カメラは目の前にある最短の物にピントを合わせます。ここで自分は「本当はもう少し後ろにピントを

またスマホを逆向きにしてみても撮影できます。寝転ぶことが困難な場合には最適です。シャッターボタンはサイドにある

二本指で拡大もできます 人差し指と中指でVサインをするように広げること

一度露出(明るさ)とピントを合わせた後は瞬間を狙うだけなのですが、これがスマホの場合タイムラグで遅れてシャッターが切れるためうまくいきません。回避するには「連写」することです。ピントと明るさが会ってしまえばすぐにシャッターは切れます。気に入った写真を選べば出上がりです。

(監修:宮下正弘)

### 第六分館 農休日マレットゴルフ大会

「農休日マレットゴルフ大会」が七月十七日(日)に赤松林運動公園グラウンドで、老若男女三十五名の参加により行われました。前日午後からの雨のためグラウンドコンディションを心配しましたが特に問題はなく、また、当日は雲の切れ間に薄日が差す天気、熱中症の心配も遠のき、楽しくプレイできたと思いま

す。コース内には先日刈った草が残り、降雨による水たまりが所々にあったり、自然の障害物に悪戦苦闘する姿もちらほら見られました。全九ホールを終えた後、ホールインワン大会となり、皆の視線が集まる中早々とホールインワンが出てドッパと歓声が上がりました。表彰式を経て無事閉会となりました。

豊丘村の直近一週間の新型コロナウイルス感染者が約二十人ということで苦悩しましたが、確認地区が限定的であること、四人のグループ毎の間隔が十分とれる屋外の競技であることなどを勘

案し、開催に踏み切りました。どうしたらできるのかを考え、できる範囲でやっていたのが、通常の生活に戻る過渡期での分館の役目と信じ、今後も取り組んでいきたいと思えます。

### コンデジ修行 スマホで遊ぶ

身近なスマートフォンでの写真撮影で基本的な操作や変わった撮り方があるのでしょうか?と云うご質問がありましたので、今回はスマホでSNS向けの撮影の一般的な方法のお話です。

合わせたいのだが」ということがあると思います。どうすれば思い通りの部分にしっかりとピントを合わせることが出来るのか、まず指でこの場所を一秒以上押し続けると、押しした箇所にピントを合わせてくれます。

### 便利なパノラマ撮影

コンデジでは左右にレンズを移動しながら何枚も撮影しますが、スマホではシャッターボタンを押した分だけ左方向から右方向までのパノラマ写真が撮れます。レンズが一つのスマホでは超広角域の撮影はできませんが、パノラマ機能を使えばワイドレンズで撮ったように写せるのです。立

りから撮影したパノラマです。花も分かりやすい大きさでワイドレンズでなければ表現できない写真となりました。このように近くに寄っても一本のレンズで様々な手法が楽しめます。変わって一瞬を写すことが大の苦手なスマホですが、シャッターチャンス逃さずに撮影することが出来るのです。

素早くシャッターボタンを押すことです

### 第五分館 夏季スポーツ大会の開催まで

堀越第五分館では、恒例行事となっています。夏季スポーツ大会を七月十日(日)に開催しました。すでに梅雨明けが宣言されていたにも関わらず、当日朝まで断続的に降っていた雨も上がり、暑すぎない天候は夏の事業開催を味方してくれました。

競技種目は囲碁ボール、会場となった堀越区民会館において、体育室と大広間の二間を使用し、囲碁ボール計四セットを配置する規模となりました。出場チーム数は、自治会単位を基本とした七チームでしたが、それに加えて、コロナ禍において堀越育成

会の子供達の活動が制限されていると聞いておりましたので、そのチームでの参加も認め、計八チームでの開催となりました。昨年に引き続き、感染症対策を万全とする目的で、検温、手指消毒、参加者名簿の作成に加えて、競技中以外の参加者には、駐車場に設置した控室テントにて間隔を確保しての待機・歓談をお願いしました。

また、本年は村のスポーツ推進委員の皆さんにコース

ポーツ紹介コーナーの開催をお願いし、当日は昨年夏のラリーピックでも注目された「ポッチャ」を酒井浩文さんの指導のもと体験

させていただきました。かつては、ソフトボールやソフトバレーボールなどの種目で開催していたこの大会も、地域の皆さんの高齢化を受け、種目や開催方法について検討を重ね変化をさせてきていますが、老いも若きも一堂に会して真剣に競技に取組む姿は、観ていても清々しく感じた初夏の日でした。

柿園を広く囲って鶏を放し飼いでいる。めば、コケッコケツと勞います。 白色レグホン、地鶏、チャボなど。この春ヒナが四羽生まれました。オンドリは虫を探してはヒナやメスにプレゼントに忙しい。カラスにクックと警戒。猫を見ればコッコと追いつかう。メスが卵を生めば、コケッコケツと勞います。 鶏たちは青草をいばんだり砂浴び(体のあか落とし)をしたり広い園を元気に飛びまわっています。 そんな鶏一家に類のゆるむ毎日です。 (北市場一福澤貴美恵)

### あなたの『ほっとするとよおか』をお寄せください

このコーナーは、豊丘村の中であなたが『ほっとする』場所、人、空間、食べ物、動植物など、なんでも自由に300文字でご紹介ください。(写真は1枚)

